国 語 科 授 業 案

日　時　平成 29 年 10 月 27 日（金）公開授業Ⅰ
生　徒　1 年Ｂ組　男子 17 名　女子 17 名
授業者　太　田　　諭
授業場　中学校 1 年Ｂ組教室

1　単元名　文章の「説得力」の源を探ろう。　～中心教材「笑顔という魔法」～

2　単元の目標

「笑顔という魔法」を読み，文章に「説得力」を持たせる工夫を探り，説明する文章を作るという言語活動を通して，説明的文章の構成や論理の展開，表現の特徴を捉えることができるようにする。また，それらに着目して説明的文章を読もうとする態度を培う。　（中心となる指導事項エ　関わる言語活動例ウ）

3　単元について

（1）単元観

「国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」によると，国語科において，「実生活で生きて働き，各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」「我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てること」が重要であるとされた。これは，現行学習指導要領の趣旨と変わるところではない。しかし，新たに重要とされたのは，「言葉による見方・考え方」を働かせ，3 本の柱からなる国語に関する資質・能力を育成することである。「言葉による見方・考え方」とは，「自分の思いや考えを深めるため，対象と言葉，言葉と言葉の関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉え，その関係性を問い直して意味づけること」とされている。よって，これからはそうした目的意識と思考のプロセスを意識した授業の構築がこれまで以上に求められることになる。

こうした要請を踏まえたとき，「言葉による見方・考え方」を働かせる上でのベースともいえる「論理的思考」をいかにして鍛えるかが重要になると考える。この「論理的思考」の形成に深く関わるといえるのが，「説明的文章」を用いた学習であろう。なぜなら，「説明的文章」そのものが純粋に論理を媒介とした表現であるため，それを読み，自らの考えを深めるためには，論理を介したインプット・アウトプットが頻繁に行われる必要があるからである。

本単元の中心教材「笑顔という魔法」は，前回の教育出版教科書から掲載された説明的文章であり，中学校 1 年生が最初に出会う説明的文章である。内容としては，「楽しいから笑うのか，笑うから楽しいのか」という問いに対し，一般的には前者と判断されるだろうと前置きした上で，実験を通して，それを覆すものとなっている。また，結論として，人間のみに与えられた能力である「笑顔」の重要性を説く。説明的文章としては短く，簡潔平易であるため，生徒にとっては内容を読み取りやすく，興味の持てるものとなっている。また，問いと答えの関係や，問題提起と答えの関係もわかりやすいことから，1 年生初期の現段階において論理の展開を読み取るには適した教材であるといえる。さらに今回の教科書においては文章の改訂がなされ，本文における実験の内容が以前よりも詳しくなるなど，より「説得力」をもった文章となっていることも，大きな特徴である。よって，両者を読み比べることにより，筆者が新たにこらした工夫が，「説得力を高める」ことを意図したものであることに気づくことができるはずである。

（２）目指す児童・生徒像

今年４月に実施したＮＲＴ検査の結果，

よって，国語を生活に結びつける関心・意欲・態度のさらなる向上を目指したい。これらの状況から，本単元における目指す自律性が育まれた姿を，「課題について，適切な根拠を持ち，それに基づいて判断し，適切に表現（発表・記述）する姿」とする。

（３）指導観

以上のことから，本単元においては，次の点に留意して指導にあたることとする。

「認識から思考へ」「思考から表現へ」のプロセスを重視した言語活動の充実

まず，本単元における「単元を見通すことができる言語活動」として，「『説得力の源はこれだ』という説明文を書くこと」を設定する。これは，生徒にとって今後必要不可欠となる力に関わる課題であり，「言葉そのもの」に関わるものでもあるため，学びの必要感が生み出されることを期待している。また，毎時間，様々な対話を通して，「説得力の優先順位」について判断するために根拠を蓄積し，その都度判断する場を設定する。このことによって，言語活動が有機的に結びつくと考える。

① 既存の言語能力による意味付けをゆさぶる教師のかかわり～Ⅰ

本単元における手立ては，改訂前後の同教材を比較材料として用い，「筆者の変更によって説得力はどう変わったのか」を課題とすることである。

生徒にとって，教科書教材が変化していることはおそらく想定外であろう。従って，この課題設定は生徒の予想を覆し，知的好奇心を喚起することを可能にすると考える。また，両者を比較することは，単独の文章を用いる場合や，他の文章を比較対象とする場合に比べ，生徒の思考を「前後の差異」に焦点化すると考える。もちろん，「説得力の源」は差異だけにあるわけではなく，その他の要素からも見いだすことができる。そこで，1時間目に，一読後の「説得力の源」を発見させておくこととする。また，説得力の源を見いだすためには，文章の構成や展開（序論・本論・結論などの構成，問いと答えの関係，主張と根拠の妥当性，具体例の効果等），表現の特徴（文体）を捉えることが必要となり，これは様々な説明的文章を理解する上での基本となると考える。ただし，個人による発見には限界があるため，対話による「差異の把握」を行う。また，「説得力の評価」も個人により異なると考えられるため，交流を行うことで視点を広げていきたいと考える。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

本単元における「言葉による見方・考え方」は，「説得力」と構成や論理の展開，表現の特徴の関係性を捉え直すことである。現状において生徒は，文章の「説得力」を増す要因について，図表や構成などを重視する傾向があると考えられる。しかし，「表現」が読者に及ぼす影響については，十分に自覚化できていないと考える。このことが自覚化され，深い学びにつなげるのが本単元における「対話的な学び」である。説得力の判断の多様性は，級友との比較によって自覚化できるはずである。それがなされれば，今後の生徒の言語生活が豊かなものになるはずである。さらには今後の言語意識も高まることが期待できる。

４　評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・理解
ア　「笑顔という魔法」の内容を，論理の展開・表現の工夫に着目して読もうとしている。	ア　問いと答え，具体例，結論の関係などの文章の構成や論理の展開を捉えている。 イ　文章の構成・論理の展開について「説得力」という視点から判断している。	ア　論理の展開に結びつく接続語や指示語に着目し，文章の理解に役立てている。

５　学びの過程のデザイン（全３時間）

下支えする主体的な学び	学　習　活　動	手　立　て
社会で必要とされる力に関わる課題を提示することにより,必要感をもち自分の考えが表現できるようにする。　A―①	**1 時間目** 「文章の説得力」に対する自分の現状認識とその根拠を表現する。　関 ア	「説得力の源は何か」，という多数の要素が考えられる課題を提示することにより，他者の考えと比較する必要感を生み出す。
文章を読んで，より具体的な「説得力の源」について記述することにより，「見方・考え方」の深化を自覚するよう促す。　B―①	単元を通してのねらい･言語活動を知り，学習の見通しをもつ。 「笑顔という魔法」の文章構成・論理の展開を捉える。 「笑顔という魔法」の説得力の源を評価する。　読ア・言ア	説得力を具体的に評価するための文章として提示することによって，構成や展開，表現の特徴について考える必要感を生み出す。
前時における自分の意見を確認することで，個の確立を促す。A―①	**2 時間目【本時】**	同じ筆者の改訂前後を比較することにより，筆者の意図と自分の認識との違いに気づき,認識を深めることができるようにする。Ⅰ
表現方法が同一人物によってさえも異なることを知ることにより，自分の意見と表現方法の結びつきに気づくようにする。　B―①	「笑顔という魔法」の改訂前との比較によって，違いを読み取る。 読み取った違いを，「説得力」という視点から分析・考察した上で交流する。　読ア･言ア	
前時における自分の意見を確認することで，個の確立を促す。A―①	**3 時間目**	交流を前提とすることにより，表現の必要感を生み出す。また,書くことによる自己内対話を促す。
書くことによる自己内対話により認識が深まるようにする。B―①	「笑顔という魔法」によって学んだ，「説得力を持たせる工夫」の視点を用いて，「説明的文章の説得力の源はこれだ」という説明文をつくる。　読 イ	
当初の現状認識と比較し,認識の違いを明らかにすることにより，「見方・考え方」の深化を自覚するよう促す。　B―①		級友の考えとの対話により，認識を深めるようにする。

6　本時について（２／３時間目）

（１）　本時の目標

二つの「笑顔という魔法」を読み比べ，論理の展開や表現の違いを捉えるとともに，それらの工夫による説得力の高まりについて，自分なりに判断することができる。

（２）　本時における研究の視点

・改訂前後の文章を提示することによって，表現と説得力との関係性に着目した思考を促す。手立てⅠ

（３）本時の展開（〇発問，△補助発問，□指示・説明）

学習活動 （下位目標）	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導(▲)
1　本単元の学習課題を確認し，本時に行う学習の見通しをもつことができる。	〇「笑顔という魔法」を読みましたが，説得力の源はどこにありましたか。Ａ－① □今日は，ある文章と比較することで，より深く考えていきましょう。	ワークシート配付
文章の「説得力」の源を探ろう。		
2　「笑顔という魔法」バージョンAを聞き，改訂版との違いに線を引くことができる。	〇では，これから文章を読みます。これは何でしょう。教科書とどこが違うでしょうか。線を引いてみましょう。手立てⅠ	・個人 【読むア・言語ア ワークシート】
3　二つの文章の違いを三点以上指摘することができる。※下段参照	〇違うところはどこでしたか。	・一斉 【読むア・発言】
4　筆者の変更によって，説得力は高まったのかそうでないのかを，理由とともに記述することができる。	〇筆者が変えたことによって，説得力はどうなりましたか。自分の考えを書きましょう。	・個人 【関心・観察】 【読むイ・ワークシート】
・実験内容が詳しくなっている。・・・・詳しくすることで、実験の説得力が増す。 ・ペンを縦にくわえたときは、沈んだ表情と似ています。・・・・・・これがあることで、横にくわえたときとの違いがわかり、説得力が増す。 ・ラジオ体操の例がない。・・・・・・・・あった方がわかりやすい。主張と関係が薄いので、ない方がよい。 ・これらの実験結果を見ると、・・・・・・まとめの言葉がどこからかがわかりやすくなっている ・いかがでしょうか→したいものです・呼びかけの方が説得力がある。呼びかけない方がしつこくなく、説得力がある。など。		・机間指導
5　班で考えを交流することによって，変更による説得力の評価がそれぞれ違うということに気づくことができる。	□班で，変更によって説得力がどのように変化したかを交流し，自分の判断が友人の判断と同様か確かめましょう。	・班　対話
6　全体で交流することによって，変更による説得力の評価の妥当性に気づき，修正することができる。 ・実験内容は詳しい方が・・・・ ・沈んだ表情という記述がある方が・・・ ・ラジオ体操が消えたことで説得力が・・・ ・主張の文末表現は問いかけの方が・・・　等	〇それぞれの変更によって「説得力」はどうなったと考えますか。 〇文末の表現では，どちらが説得力があると考えますか。	・一斉　対話
7　「笑顔という魔法」全体の説得力について，自分なりの根拠をもって評価することができる。また，次回行う説明文の材料とすることができる。	〇この文章全体の「説得力」は，ＡとＢでどちらが上でしょうか。 〇今回新たにわかった説得力の源は何でしょうか。　Ｂ－①	・個人 【読むイ・ワークシート】